



はじめのマンガ……………4

スマートシティとは……………8

1 SDGsからまちづくりを考える

SDGsがかかげる「まちづくり」……………10

コラム「まちづくり」というときの〈まち〉……………12

人間にふさわしい環境で暮らせない人たちがいる……………14

2 まちづくりと都市

拡大を続ける都市……………16

経済成長をめざすまちづくり……………18

3 都市がかかえる課題

移住者の増加で拡大する都市スラム……………20

交通渋滞と大気汚染……………22

急がれる衛生環境の改善……………24

先進国の都市の課題……………26

日本の都市の課題……………28

災害に強いまちづくり……………30

究極の都市づくり……………32

4 住宅についても考えてみよう

住まいの貧困……………34

安全な住宅、安全な建物……………36

省エネで脱炭素な住宅……………38

自分のまちを調べてみよう……………40

チャレンジクイズ……………42

あとがき 都市問題の解決はSDGs推進のカギ
国谷裕子……………44

さくいん……………46

【用語解説】

先進国：早くに経済成長をとげ開発途上国に経済援助を行っている国

新興国：急速に経済成長を続けて開発途上国からぬけ出した国

開発途上国：経済発展の途上にあり先進国などから経済援助を受けている国

後発開発途上国：開発途上国のなかでも最も経済開発が遅れている国

高所得国：1人あたりのGNI（国民総所得）が高い国（1万3845ドル以上）

中所得国：1人あたりのGNIが中位の国

低所得国：1人あたりのGNIが低い国（1135ドル以下）

＊いずれも明確な国際的定義はなく、国ぐにを明確に分類することはできません。後発開発途上国だけは、その国と合意のうえで、国連が認定しています。

1人あたりのGNIで示した基準額は、世界銀行が2023年7月から2024年6月の期間適用する金額です。

GDP（国内総生産）：一国の経済状況をみる指標の1つ。ある期間内に国内で新たに生まれた価値（商品・サービスなど）の総計。

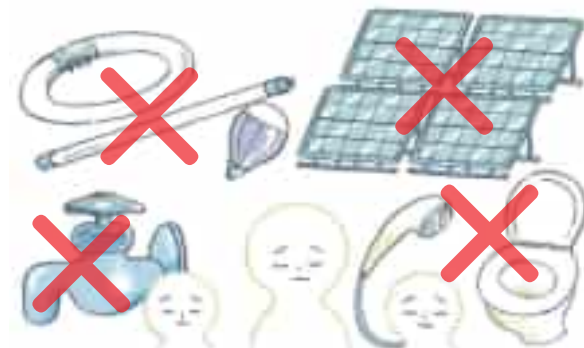
GNI（国民総所得）：国民の経済的な豊かさを見る指標の1つ。ある期間内に国民全体が受け取った所得の総額。

人間にふさわしい環境で暮らせない人たちがいる

SDGsのゴールの11「住み続けられるまちづくりを」は、電気・ガス・水道、そして鉄道・バスをだれでも利用できるようにしようといっています。世界には、電気・ガス・水道といった公共インフラ（社会生活を支える基礎的な設備）の恩恵を受けられていない人が大勢いるのです。現在の世界は、食料や教育や衛生などとともに、「人間らしい環境で暮らす」ということでも貧困をかかえています。

電気・ガス・水道は、現在の日本では都会でも

田舎でもほとんどの人が利用できます。では、電気・ガス・水道を利用できていない人たちは、世界のどこにいますのでしょうか。



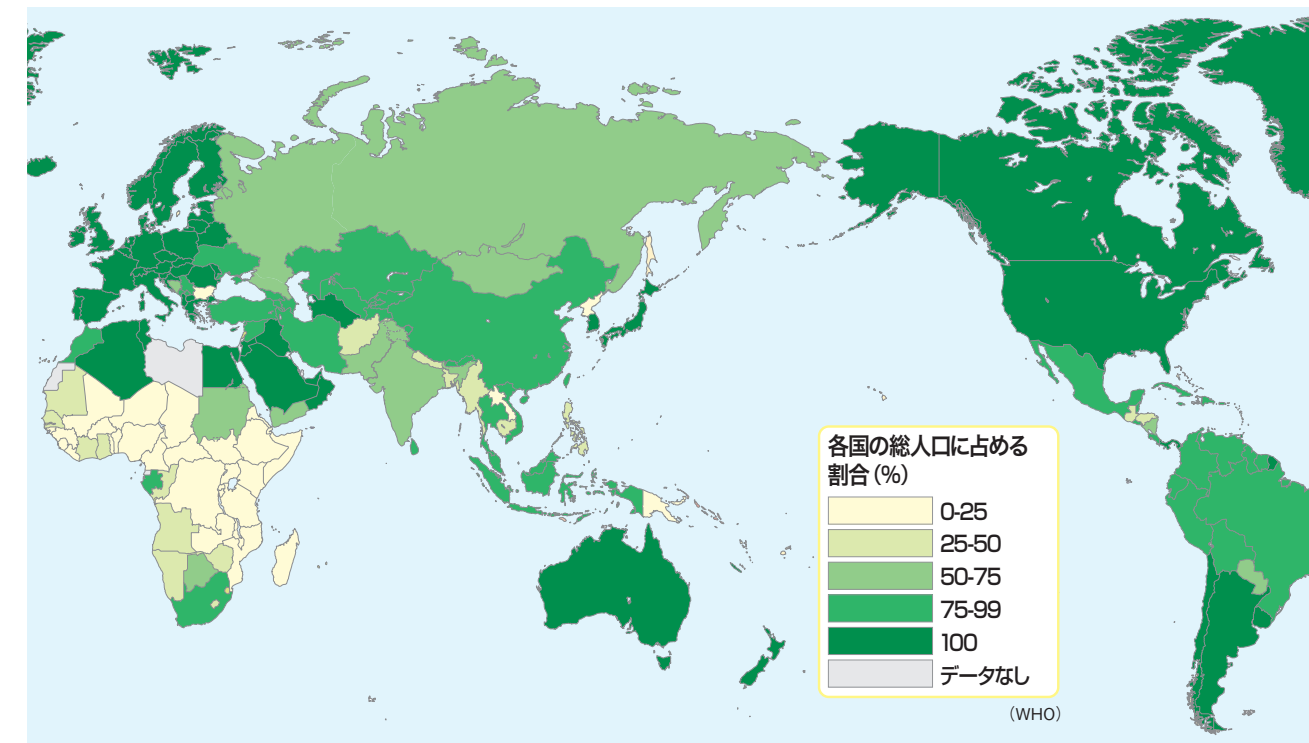
●電気・ガス・水道のない地域

国連の「持続可能な開発目標（SDGs）報告2023」によると、世界で電気エネルギーを利用可能な人の割合は2021年には91%に達していますが、それでも6億7500万人がまだ電気を使えない環境で暮らしています。また、LPGガス、天然ガス、電気など大気を汚染しない調理用燃料

を利用できる人は、2021年で世界の71%。それ以外のおよそ23億の人たちが、いまま木炭や石炭や薪などで調理をしています。

そうした電気やガスを利用できない人びとの多くは、サブサハラ（サハラ砂漠以南のアフリカ）地域に集中しています。近年高い経済成長をみせているエチオピアの2020年の電気利用可能率は51.1%でした。サブサハラ諸国のなかでは高い

国別 大気を汚染しない調理用燃料を利用できる人口の割合(2021年)



水準でしたが、データをくわしく見ると都市部が93.2%なのに対し、地方（都市部以外）は39.4%しかありませんでした。

水道水など安全で衛生的な水の利用についても、世界の平均利用可能率に比べると、サブサハラ諸国を含む貧困国の利用可能率は半分から6割程度と低い数字にとどまっています。

電気・ガス・水道を利用できない人の多くは、アフリカやアジアなどの開発途上国（経済開発の途上にある貧困国）・後開発途上国（最も経済開発が遅れている貧困国）の、とくに農村など都市部以外の地域に暮らしているといえます。

●だれ1人取り残さないまちづくりを

2022年現在で、世界には、武力紛争や内戦の暴力を避けるために家を捨てて国外に逃れた人が約3530万人、国内の安全な場所に逃れた人が約6250万人、合計1億人近い「難民」と呼ばれる人たちがいます。さらに洪水・干ばつなど、気候変動による災害のために家を追われた気候難民も、約3000万人になると発表されています。気候難民は2050年までに2億人を超すだろうとも予測されています。こうした人たちが暮らす難民キャンプも、電気・ガス・水道の整わない厳しい生活環境で、住まいはテントなど簡易的なものがほとんどです。

このような世界各地につくられている難民キャンプのほかにも、開発途上国や後開発途上国の貧しい農村地域など、世界には、都市部以外にも多くの人の暮らしがあります。こうした貧しい地域のまちづくりには、ばく大な資金が必要になります。そのため、SDGsはゴール11のターゲットで、後開発途上国のまちづくりには世界の支援が必要だといっています。



(写真提供:PIXTA)

ゴール11の目標は、「安全で災害に強い持続可能な都市と住まいをすべての人に実現しよう」でした。スマートシティを考えるときにも、「持続可能で」「だれ1人取り残さない」というSDGsの基本原則を大事にして、都市部以外で生活する人びと、経済成長から取り残された人たちの暮らしを忘れないようにすることが大切です。

ケニアのダダーブ難民キャンプ。仮設避難所と避難民の女性たち。



(写真提供:AP/アフロ)

移住者の増加で拡大する都市スラム



ここからは、現代の世界と日本がかかえている都市の課題をもっといろいろな視点から確認していきましょう。

世界が解決すべき重要な都市問題の1つが、各国の大都市に形成されたスラム（貧しい人たちが過密状態で生活している居住地区）の環境改善です。貧しい人たちが、数百人から数万人、ところによっては百万人を超えて密集生活しているのがスラムです。スラムの改善は、SDGsのゴール

11も目標の1つとしています。

近年、スラムで暮らす人口は増加を続けています。国連人間居住計画（UN-HABITAT）は、世界のスラム人口を、2000年に7億7670万人、2010年に8億2760万人と報告。その上で、2030年には20億人になるだろうと推計して、スラム拡大に警告を発し続けてきました。最新報告は、2020年現在のスラム及び不法居住地に暮らす人口をおよそ10億人としています。



マココ地区は、土地の所有権もあいまいなままに、漁民を中心とする貧困層が住みつくようになった水上のスラム。いま住民たちは、この土地の再開発を考える州政府から立ち退きをせまられています。

（写真提供：AP/アフロ）

増加するスラムの人口

現在の都市人口増加のほとんどは、アジア・アフリカの開発途上国で起きています。農業が成り立たなくなった地方の人びとが、仕事を求めて都市へ移住しているためです。内戦や紛争を逃れて移住してくる人々も大勢います。

しかし急速に拡大した都市に、流入してきた人々を雇うだけの産業が育っているわけではありません。企業で働けるのは高等教育を受けたごくわずかの人に限られ、地方から移住してきた人の多くはきちんとした仕事につくことができません。

仕事のない貧困層に提供できるだけの公共住宅も建設されないため、スラムがふくらんでいくことになるのです。

スラムでは、小屋のようなそまつな家で暮らす人たちがほとんどです。電気・ガス・水道・ごみ収集などの公共サービスは未整備で、感染症も広がりやすく、衛生環境は最悪の状態にあります。貧困のために治安状態もよくありません。学費が払えない、働かなければいけないなどの理由から、多くの子どもたちが学校に行っていません。スラムの人口が増えていることもあって、都市部の貧困層、貧富の格差は拡大を続けています。

●新興国・開発途上国の大都市に広がるスラム

インドのムンバイ、南アフリカのケープタウン、ケニアのナイロビ、エジプトのカイロ、フィリピンのマニラ、ブラジルのリオデジャネイロなど、アジア・アフリカの新興国や開発途上国の大都市には、数十万人から百万人の貧困層が暮らす巨大なスラムが形成されています。国全体の経済は成長していても、公共住宅の建設や公共インフラの整備は需要に追いついていません。

左ページの写真は、アフリカのナイジェリアの大都市ラゴスにある「マココ」と呼ばれる水上スラムです。アフリカの大国ナイジェリアは、近年経済成長をみせている開発途上国の1つで、人口2億人のうち約52%が都市部で生活しています。

25万人ともいわれる貧しいマココの住民たちは、ごみで汚れた水路の上に小屋を建てて暮らしています。ここには電気・水道などの行政サービスはまったく届いていません。

急激な経済成長をみせる南アメリカの新興国ブラジルの大都市には「ファベラ」と呼ばれるスラム化した不法居住地があります。人口約1400万人のメガシティ、リオデジャネイロにあるファベラは、貧困のために都市の中心部に住めなくなった人たちが移り住んで形成されました。リオデジャネイロの人口の4分の1がファベラに住んでいるともいわれています。山の斜面に形成されているファベラは、豪雨によって土砂崩れが発生したときには大災害になるだろうと心配されています。



リオデジャネイロのファベラ
レンガ造やコンクリート造の家が無秩序に山の斜面をおおうファベラ。ブラジル 第1の大都市サンパウロには、2023年現在1747か所のファベラがあるといえます。

（写真提供：PIXTA）

地域別 都市人口に占めるスラム人口の割合(2000年～2018年)

